



## ゴジラとあかちゃんまんは私たちに何を告げているか？

田村 均 (哲学)



左の写真を見て下さい。これはどういう一瞬を切り取ったのでしょうか。

下はゴジラ、上はあかちゃんまん。とりあえずゴジラがあかちゃんまんを肩車して一緒に遊んでるように見えます。微笑ましい。よく見るとあかちゃんまんはちょっと笑ってますね。

しかし大きさが合わない……あかちゃんまんがゴジラの半分くらいある。巨大化したのか。すると巨大化したあかちゃんまんが背後からゴジラを襲った決定的瞬間のようにも見える。あかちゃんまんは、してやったりと笑ってます。ゴジラは明らかに慌てています。眼を剥いて口を開け、今にも熱線を吐きそうだ。

でも左手奥の建物は名大文学部みたいだ。右手には大木の根っこ。これは名大の図書館前の植え込みですね。下草が変にリアルなんだが、平和な木陰のフィギュアたちです。

このゴジラとあかちゃんまんのフィギュアは私の講義にこのところ毎年登場します。ゴジラは 20 年以上前にアメリカ、ピッツバーグのモールで \$ 19.99 で購入しました。あかちゃんまんは近所のアピタで 3 年前に購入。現実世界の物品としてはただのオモチャです。ですが、この姿と形を見ると、一瞬で別の世界に想像が飛ぶ。このオモチャが「あの」ゴジラ、「あの」あかちゃんまんだからです。

二つを組み合わせると、奇天烈な物語がいろいろ生まれる。それは、私たちが「あの」ゴジラの世界と「あの」アンパンマンの世界を知っていて、このフィギュアたちの上にそういう虚構の世界を重ね描きするからです。想像力は過去から受け継いださまざまな物語によって養われています。物語に沿って私たちは世界を理解し、語ったり行動したりする。私たちの心と体を動かす物語とは一体何なのか。こういうことを哲学の問題として考えています。

研究室紹介—File16

## 世界中の言語に目を向ける

研究室名：言語学研究室

言語学と聞いて皆さんはどんな事を研究している所だと想像されますか。名大の文学部には日本語学や英語学など個々の言語に対応した専攻があるのに、言語学では何をしているのかよく分からないと思われる方もいるかもしれません。言語学では世界中の 5000~6000 あると言われる言語のすべてを研究対象としています。そのため言語学専攻に進むと、さまざまな外国語を学ぶことになります。大学生になると第二



外国語を選択することになりますが、さらに「第三外国語」「第四外国語」…なる言語の初歩を学ぶわけです。それ以外にも、授業で使われるテキストには今まで一度も聞いたことがないような言語も例文として登場することがあり、それらを使って様々な言語現象を説明していきます。

とはいえ、言語学専攻の学生が目指しているのは、言語を習得することだけではありません。むしろ、多くの言語を学ぶ中で、その言語でどんな音が使われているのか、どのように単語が作られているのか、どんな文法的特徴があるのかを把握することが重要です。今まで知らなかった言語を分析する時には独特の難しさがありますが、数多くの言語に接するうちに、日本語や英語など今まで慣れ親しんできた言語の見方も変わっていきます。

世界中の言語が研究対象ということもあってか、言語学研究室では海外へ留学しに行く学生も少なくなく、いろいろな国から日本に来ている学生もいます。また、授業で扱われた言語を通じて様々な国の文化を見ることができるのも大きな魅力の1つです。皆さんも言葉を通して世界を見ていきませんか。

[加納 佑華 (言語学研究室卒業生。現・名大職員)]

研究室紹介—File17

## 常識への挑戦 世界と繋がろう

研究室名：比較人文学研究室

比較人文学研究室は、文化人類学・宗教学・日本思想史という三つの専門分野からなり、個別研究に分化しがちな人文系諸学問を学際的に統合することを理念としています。

その基本的な研究方法は、各々が自身の研究対象の資料を集めるために現地へ赴き、実地調査を通して資料を収集することです。またその分析と考察を従来の専門枠組みにとらわれず独創的に先端研究を行うことも重視しています。そして、比較人文学の研究では、ただ抽象的に物事をとらえるのではなく、目の当たりにする人・モノ・コトに直接触れ合うことで、そこに息づく現実的な人間の全体像を五感を使って感じとり、具体的な理解を踏まえた研究を目指しています。

研究対象は多岐に渡り、様々な国と地域にまたがって各々の関心のもとに研究がすすめられています。ある者は、寺院の書庫に埋もれた古文献を発掘し、埃にまみれながら調査解読作業をし、またある者は、現地住民と中長期的に共に過ごすことで、研究対象を生活全般から理解しようと試みています。

さらに、本研究室では、多くの外国人留学生を迎え入れています。そのため、様々な地域の考えや慣習を直に見聞きすることができます。また、文化人類学・宗教学・日本思想史を専門とする院生たちが、それぞれのゼミにおいて発表するのみではなく、比較人文学における三つの専門分野にわたる合同ゼミという意見交流の場も設けられます。そこでは、常識や専門性にとらわれず、学際的に研究に取り組む環境が整っています。そのように独創的、かつ学際的な研究が実現できるのが、比較人文学研究室の最大の魅力です。

[郭 佳寧 (博士後期1年)]



合同ゼミでの研究発表

## 後期の授業がはじまりました

私大などでは、さいきんは9月の半ばから後期というところも多いですが、名大はいまのところ、10月1日からが後期の授業です。夏休みに海外出張されていた先生方も次々に戻ってきて、一気に増えた学生とともに、文学部棟にもいつもの賑やかさが戻ってきました。(K記)

最近の文学部

\*本紙では、名大文学部の多彩な内容を順に紹介していきますが、それまで待てない人は...

名大文学部のWEBサイト <http://www.lit.nagoya-u.ac.jp/> まで (『月刊名大文学部』のバックナンバーもあります)